

日本教育学会東京地区公開シンポジウム

# 教育について真剣に考える——教師の視点から

Taking Education Seriously: Taking the Angle of the Teachers

「教育 (education)」という言葉はいとも簡単に使われる。しかし、教育とは何か、教育がどこでどのように重要であるのかを正確に理解することは、多くの人が考えている以上に難しいことである。本シンポジウムでは、教育哲学者として国際的に活躍するガート・ビースタ教授を招聘して、教育を真剣に考える最善の方法は、教師の視点に立つことであると主張することでこの課題に取り組んでいく。なぜ教師の視点に立つことが大切なのか、そのような角度から教育を理解しアプローチすることで何がもたらされるのか。このシンポジウムでは、すべての教育的な試みの中心には「世界」があるべきだというビースタ教授の教育学について考えることにしたい。

## シンポジウム概要

学会代表挨拶	小玉重夫 (日本教育学会会長、白梅学園大学学長、東京大学名誉教授)
講演	ガート・ビースタ (エディンバラ大学教授、メイヌース大学教授)
指定討論	今井康雄 (東京大学名誉教授、日本女子大学名誉教授) / 加藤守通 (東北大学名誉教授)
司会	上野正道 (上智大学教授)

### 講演者プロフィール

## ガート・ビースタ (Gert Biesta)

アイルランドのメイヌース大学教授 (公共教育学)、エディンバラ大学教授 (教育理論・教育学)。Asia-Pacific Journal of Teacher Educationの共同編集者、Educational Theoryの副編集者、オランダ教育審議会のメンバー。教育理論と教育・社会研究の哲学を中心に、教育、教師、教師教育、カリキュラム、教育政策、シティズンシップ教育、芸術教育、宗教教育について研究。邦訳書に、『民主主義を学習する』(勁草書房)、『よい教育とはなにか』(白澤社)、『教えることの再発見』、『学習を超えて』、『教育の美しい危うさ』、『教育にこだわるということ』(以上、東京大学出版会)、『よい教育研究とはなにか』(明石書店)、最新刊のWorld-Centred Education: A View for the Present (Routledge)が東京大学出版会より近刊。

日時

2024年11月25日(月)  
13:10~14:50

参加費  
無料

会場

上智大学四谷キャンパス6号館304教室

当日は対面(定員100名)とオンラインとのハイフレックスを予定しております。  
また、講演は英語で行われます。

お申込

お申し込みフォームを用意しております。下記のURLかQRコードより  
11月18日(月)までにお申し込みください。

対面参加は定員に達し次第、申し込み受付を終了します。

<https://docs.google.com/forms/d/1zotma4w0mdjNZ5R6zX8GjcHt2zssHWayGVBEEnIFms-4/>



主催 日本教育学会

共催 教育哲学会、一般社団法人東アジア教育研究所